



実践事例

東京都杉並区光塩女子学院初等科

児童・生徒数 全校471名

導入学年 全学年

導入教科 国語 社会 算数
理科 英語

活用場面 朝学習、隙間時間、宿題、夏休みなどの長期課題

使用端末 iPad

端末の持ち帰り あり

もぎ としひろ 茂木 俊浩先生に
タブドリLive!の活用状況について
お答えいただきました!



数あるデジタル教材の中から、タブドリLive!を選んだ決め手は何ですか?

1つ目は、勉強が得意な児童と苦手な児童の両方をカバーできる教材であること。5教科を自由に、前の学年も次の学年も児童が好きな選べるというのはとても魅力的です。
2つ目に、小学生が自分から取り組みたくなる教材であること。さまざまなデジタルドリルと比較したときに、多くのドリルはかなり無機質で、どこか修行的な印象を受けました。そうではなく、学校や授業以外で児童がやりたいと思わせるドリルがいいなと。あくまで学校は「やってみようかな」という種をまく場所でありたいですね。そういう位置づけとして、タブドリLive!は最も優秀だと思い採用に至りました。



タブドリLive!を導入してみて、活用状況はいかがでしょう?



児童には使用を強制しておらず、朝学習の5分間を使った自主学習や、授業の演習が早く終わった時の選択肢のひとつとしてタブドリLive!を使わせています。また、長期休業中の自由課題として使ったり、児童から「先生、課題を出して」と要望された時に配信したりすることが多いですね。本校ではiPadに様々な教育アプリを入れているのですが、その中でもタブドリLive!は多くの児童が自発的に継続して使用していますね。

紙のドリルと比べてタブドリLive!のメリットはどんなところですか?

①保管の手間がないこと、②やりたい時にすぐできる手軽さ、③即時採点の3つだと思います。紙の計算問題だと丸付けせずに終わりがたがる児童も、デジタルならその場で採点され、賞がもらえるから最後までやり切ります。最後までやり切ることで、自分が何を間違えて何がわかったのかを把握できます。面白い、楽しいとのめり込んでやっていくうちに実は学習が定着している。そんな仕組みが紙のドリルにはないメリットですね。



活用の場面

1



朝学習

朝学習の5分間で、読書や勉強に取り組みます。タブドリLive!はiPadからスムーズにログインでき、短い時間でも学習を進められます。

2



演習のスキマ時間

算数の問題が早く終わった児童からタブドリLive!に取り組みます。どの児童も手持無沙汰になることがなく、先生は個別の支援に集中できます。

タブドリLive!を使っている 子どもたちの声

「今週がんばった人」として「みんなのLive!」に自分が出ると嬉しいからがんばれます。

タブドリLive!は最近クラスで人気です。スムーズに学習を進められるところがお気に入りです!

苦手をなくすために、ドリルの全国平均点と自分の点数を比べて、低いところをもう一度取り組んでいます。

テストの前などに復習できるのが便利です!メダルやプライズを集めるのも楽しいです。

英語をずっと続けていて、単語の意味がどんどん分かるようになってきました。

導入後、学力や意欲に変化はありましたか?

明確な検証はしていませんが、間違いなく意欲を下支えしてくれています。学力の底にあるのは学びに向かう「意欲」です。小学生の時期は楽しい・面白いといった感情的なきっかけが重要で、タブドリLive!のイラストやゲーム性がそれを後押ししています。また、学力を伸ばすにはある程度の訓練的な学習も必要ですが、タブドリLive!ではゲーム感覚で負荷を感じにくく学べるため、結果的に取り組む機会が増え、学力向上に直結していると感じます。

タブドリLive!活用のすすめ

「『学校が楽しい、友達と一緒にいたい』と思えるような環境づくりをしたい」という先生のお話が印象的でした。児童がそう思えるためには、児童の中に「やりたい」という興味の種や、「できる」という自信の種がまかれている必要があるのだと思います。
学校はその「種をまく」場所であると位置づけ、その環境づくりの一助としてタブドリLive!を導入したという、明確な教育ビジョンに基づいたブレない導入背景が、大変印象に残るインタビューでした。